

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー一部報第 11 号 (8 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

夏休み IH視察と苗場遠征

今夏は南東北 IH サッカー競技が隣県宮城で開催されるということで、恒例の月山合宿をせず¹、合計 3 日間 IH 視察を行いました。山形県代表の山形中央²の応援がてら一回戦から視察する手もありましたが、やはり優勝を狙う強豪が登場する二回戦から観て勉強してもらいたい。そんな思いから、7 月 30 日 (日) の二回戦、31 日 (月) の三回戦をどちらも日帰りで県サッカー場 (めぐみ野) に行きました。

二回戦観た中で印象深かったのは**青森山田 VS 東福岡**の試合。青森山田は昨年度チャンピオンシップ³と選手権を獲り、今期も全国リーグのプレミアリーグ EAST で優勝争いをしている。当然今大会優勝候補筆頭。人々の注目度も NO.1。対する東福岡も、プレミアリーグ WEST に所属する全国区の強豪。この両者が 2 回戦で対戦するのは正直もったいない。スタンドやゴール裏・スタンド反対側もビッチリ観客で埋まる。試合は攻守にそつなくプレーしチームが既に完成していると思わせた青森山田が 3-1 で勝利するも、目に付いたのは、(チームとしての戦いではなく) **個々の選手のボール際のアグレッシブさ。奪い奪われる攻防、体を入れられまた入れ返す攻防**がそこかしこで繰り広げられる。両チーム選手、相手 (ボールホルダー) を楽にさせる対応がない。この全国レベルの球際の攻防を観ただけでも、視察に来た甲斐がありました。

三回戦は**青森山田 VS 前橋育英、市立船橋 VS 阪南大高**⁴の両試合どちらも印象深かった。前日、チームが既に完成の域にあると思った青森山田ですが、自ら崩れるような敗戦にビックリ。山田が先制した時には「やはり山田 (の勝ち) か」と思いましたが、その後 CK

¹ 月山の定宿には合宿をしないとの連絡はしませんでした。あちらからも「今年はいつ合宿ですか」との連絡もなかった。月山湖でカヌーの IH が開催されたので、月山志津温泉街はその宿泊客でサッカーどころではなかったと思われ。

² 一回戦で東京代表の関東第一と対戦。大方の予想に反して、**試合は堅い守備からの確に相手 DF ライン裏を攻略する山形中央優勢の試合**。私は仕事柄? 当然現地で応援しておりましたが、あんなに手に汗握る一戦となるとは思いませんでした。山辺出身の選手 (主将) を応援しに来たのでしょうか、**3 年アダチのパパ**も会場にお越しになっていましたが、アダチさんもこの試合身を乗り出したことでしょう。試合途中「この試合は単に『惜しかった』で終わらせてはいけない。久しぶりに山形代表が全国で勝利しなければいけない試合だ。」と思いましたが、結局試合終了間際に失点し、0 対 1 の敗戦。その後、関東第一がベスト 8 に進出したことから考えても、**山形中央はかなり良い戦いをした**ということになる。戦い方によって、山形のチームも十分全国で戦えるということを再確認させられた IH でした。**山形中央の皆さん、ナイスゲーム! お疲れ様でした (次は勝つてね)。**

³ 全国リーグであるプレミアリーグ EAST を制し、そして、WEST とのチャンピオンシップを制し、2 種最強を証明しました。すごい、すごすぎる!!

⁴ 前橋育英はプリンスリーグ関東所属、阪南大高はプレミアリーグ WEST。

から前育が同点に追い付くと、山田の選手に焦り（攻め急ぎ）が見られ、そのチャンスを前育が的確につかみ逆転に成功、結局 3-1 で前育が勝利。山田の選手と言えども、やはり高校生、何があるかわからないと思ったし、前育の選手のゲーム支配のクレバーさに感嘆した試合でした。第二試合は同じくプレミアリーグ EAST 所属の市船の試合を観ましたが、この試合もやはり、攻撃云々の前にプレッシングの厳しさが半端ないという印象。**要するに、全国レベルの選手たち、上手い下手の前に、メチャクチャ走ってる（全力疾走を繰り返している）し、恐れずぶつかり体を入れあってるし、お互いに声掛けまくっている。**ボールを奪い合う中でゴールをおとし入れるサッカーという競技の原点を見る思いでした。

8月4日（金）の決勝も、アディダス・スポーツパークでの新庄北との練習試合（宮城で山形対決！）の後に視察。**流通経済大柏 VS 日大藤沢**の対戦を観戦。私、日大藤沢は二回戦昌平戦の前半を観ていたの、観るのは二度目。その二回戦の前半は日大藤沢もカウンターから持ち味を出していましたが、昌平のボールポゼッションの巧みさの方が印象深く、前半は昌平が先制して折り返した。後半は、その隣で行われていた市立船橋 VS 東海大星翔を観たので、日大藤沢の逆転劇を観ることはできなかつたのですが、神奈川第二代表のチームが決勝に進んだことも併せ考えると、**この世代（高校生年代）は何をきっかけとして急激に伸びるかわからないし、一戦一戦伸びていく⁵ことを改めて実感。**決勝は、選手層の厚さから盤石の試合運びを行った流経が勝利。選手とともに、IH のチャンピオンの誕生の目撃者になりました。

8月8日（火）から11日（金）は恒例の苗場遠征。全国レベルの試合を間近に観て刺激を受けた成果を発揮する遠征となりました。スキーグレンデや野外音楽フェスティバル等で有名な新潟県苗場にある、苗場グリーンランドにて行われる伝統ある大会。**今年で31回目を数える。近年は天然芝や人工芝ピッチを揃える大会が人気ですが、何と云ってもこの大会は安いし、クレー（土）のピッチと言っても質が良い。**というか、毎年ここに書いていますが、山東のレベル、クレーで十分。着こなせない高級品に身を包んだ田舎者になど、なる必要がない。身の丈に合ったクレーコートでサッカーをし、行き帰りは山道の走り。**ストイックな気持ち、ハンタリーな気持ちになる最高の環境です。**人工芝や天然芝に行った時、「やった～今日は芝だ」というこみ上げるうれしさを味わえる⁶。人数が少ない（選手21名）ので、**カツミ（山東第66回卒）、ミツイ・シュン・クロサカ（67回卒）のOB4名⁷**に来てもらい、選手や副審として活躍してもらおう。毎年夏・冬・春とOBが快く参加してくれるのは大変うれしい。

⁵ 山形東サッカー後援会の故武田元会長の決まり文句でした。

⁶ **最近の子どもたちは、良い環境に慣れ過ぎて、天然芝・人工芝を当たり前と思っている節がある。ゆえに環境に喜ばない（感謝しない）。「なんだ土かよ」と文句だけは言う。**山東諸君、こういうサッカー選手にだけは育ってほしくない。もちろん、①故障が少なくなる、②イレギュラーがないのでボールばかり目で追う必要がなく顔が上がる（判断力が鍛えられる）、③雨天時にコンディションを維持できる等の天然芝・人工芝のメリットももちろんありますが。逆に、土で育つと、雨でボールが転がらない中でもプレーできないといけないので、小手先のボールタッチではなく体を入れながらボールキープするスクリーンの技術（それを本物の技術と呼びましょう）が身につく、という利点があります。

⁷ 予定では、OB5名が来てくれることになっていましたが、その中で1名キャンセルがありました。

初日は台風のため大会は中止。ですが、昼には雨も止んでおり、降ってても小雨程度。試合できるかもしれないと思いグリーンランドへ行くと、他にも同じようなことを考えたチームがあり、練習試合実現。試合中土砂降りになり、練習試合は途中で終わり、その後大雨の中紅白戦となりましたが、**ぬかるんだピッチでしっかりフレーできるか**が試される。

二日目もピッチがすべて乾いている状態ではなかったため、悪いコンディションの中いかにプレーするかが問われた。しかし、山東の選手、まず蹴れない。これは良いピッチコンディションでも良いキックをする選手がいないことから、当たり前とを感じる。今年は、セットプレーのキッカーを安心して任せられる選手が見当たらない。そして、**キック技術のなさは、ぬかるんだピッチコンディションで余計に目立つ**。なぜかという、ボールが水を含み重たくなるから、ではなく、思ったようにボールが転がらないため詰まった状態（自分が蹴りやすいと思うポイントよりも手前にボールがある状態）でキックすることを求められるなど、**ボールがどこにあっても蹴れる技術、たとえ（助走が）ワンステップであって蹴れる技術がない**から。要するに山東の諸君、**これまでボールを止めて蹴るという基本練習において、自分に甘い環境を与えてきた**ということ。ボールが蹴りやすいポイントよりも手前にあれば、もう一度ボールに触り蹴りやすいポイントを求めたり、ボールが蹴りやすいポイントよりも内側にあれば、助走を蛇行させて蹴りやすい状況を作ってから蹴ってきたということを意味する。しかし、実戦では相手は待ってくれないため、もうワンタッチかけたり助走で大回りしているうちに、ボールを奪われることになる。悪いピッチコンディションは、日常のプレーの甘さが如実に出る。自分の蹴りやすいポイントにボール持って来るのではなく、「**自分の蹴れるポイント**」**自体を広げる努力、どこにボールがあっても最短距離の助走で蹴れるようにしておく努力**を積むことこそ、本物の選手の求めることと言える⁸。要はボールを自分に合わせるのではなく、ボールに自分を合わせるのが本物の努力と言える⁹。OBのミツイなど、技術がしっかりしている選手は、やはり悪いピッチコンディションを苦しめない見本を示してくれました。ともかく、A、Bともいい加減なプレーが多く、分かり切っていたとはいえ、OBの巧さだけが目立ちました。

しかし、**三日目、四日目と、徐々にフレーに改善も見られました。なかでもピッチ内の声掛け・コーチングに活気があり、ようやくIH視察の効果が表れてきたと感じさせました**。正直な話、このチーム、私が受け持った山東の中で過去最低レベルのスキルとフィジカル能力しかなく、恐らくチームとしては一番弱いのですが、他方で、**一番元気がある**¹⁰。それがピッチの中でもしっかり出せるようになってきた。特に四日目最終日は、AB

⁸ 山東が練習場にしている河川敷のグラウンドでは、ジュニア・ジュニアユースのチームを擁するクラブチームジェラーレさんが土日しばしば練習していますが、その監督さんが「クレで練習した方が最後までボールを見極められるようになってほしいと思って、（人工芝のピッチを借りてばかりではなく）クレでの練習の機会を増やしたいと考えているんです」と仰っていました。注6で書きましたように人工芝や天然芝で練習する効果もあるとは思いますが、個人技術を身につけるためにはクレの方がいいと**ジェラーレユースである山東？**顧問の私も思います。

⁹ このことは、他の件でも痛感します。たとえば、山東では、相手が自分の右側から寄せてきても、自分は（右利きで）ボールを右側に置いた方が気持ちいいので、右にトラップして簡単に相手に奪われる、などというシーンを数多く目撃します。**自分を状況に合わせてフレーしなければならないのに、状況を見捨て自分の都合（自分のやりたいこと、自分の気持ちのいいこと）に合わせてフレーをしている選手を多く見かけます。**

¹⁰ 今回の苗場遠征の反省のプリントに、**3年カンタ**がこう書いていました。「このチームは自分たちの

どちらも苦しみながら勝利をもぎ取る良い終わり方ができ、達成感を感じながら苗場を後にすることができました。

「下手だけど頑張る、弱いけど一体感がある」このチームの立ち位置を確認できた苗場でした。OBは故障者が出たことから、GKコーチとして尽力してくれたクロサカ以外は途中からフル出場で貢献してくれました。**4名のOBありがとうございます！** また、宿泊したペンションハイジさん、温かいおもてなしありがとうございました。また来年よろしく願います。

山東サッカーフェスティバル(OB戦) 今年も盛会

8月5日(土)、8月第一土曜日恒例の山東サッカーフェスティバル(OB戦)が開催されました。**OBと現役入り乱れてのサッカーの後、中庭で佐門のモツ煮を食べる**恒例の企画。冬の納会が昨年で35回目だったので、この企画も30年以上は続いているものと思われる。今年も盛大に開催されました！

プレーしたという意味では、**上は山東35回卒の方から下は卒業したての67回卒のOBまで**、幅広い世代が結集。マネージャーも、**岡部さん(45回卒)**と**アサゴン(63回卒)**が来てくれた。**35回卒は齋藤さんと野口さん、36回卒は沢井さんと鈴木さん(ユートパパ)**。この方々と後援会役員の後藤さん¹¹ら37回卒が二冠会の主力メンバー。OB戦のために心身の調子を合わせてきて下さったようで、野口さんなどは鈴木さんに現在の調整具合をたびたびチェックされたとのこと。昨年はこの部報で、「下のOBが気を利かせず、ラストパスを供給しないものだから得点しませんでした、私がMFで入ったら[35回卒の]お二方にスルーパスを出して得点機を演出したはずですよ」と書きましたので、今年はプレーした私もスルーパスを狙ってはいました・・・が、**42回卒(カンタの叔父の代)・43回卒(私の代)・44回卒で繰り広げる自己満足的ショートパス**に付いて行くのがやっとなりで、誠に情けない話ながら有効なラストパスを出せず仕舞い。というか、ゴール前まで行くことができませんでした。レジェンドの方々に得点して頂く機会を狙ってはいたんですけどね～。すみませんでした。**報道局長の後藤さん**からは、「こら今野、お前は選手がバックパスをすると怒るくせに、お前のパスはバックパスばかりだったぞ」とお叱りを受けました。一応前線を観ながら(縦パスを狙いながら)のバックパスなので、私の基準では問題ないのですがね～。OBの方々のプレーで印象深かったのが、**鈴木さんと息子ユート(67回卒)の親子対決**。子どもが小学生くらいですと親子対決もありますが、子どもが高校卒業してからも親子対決ができるのは、素晴らしいこと・うらやましいことだな～としみじみ思いました。というかユート、勉強大丈夫なのか？ともかく、今年、自分も久しぶりに長くプレーしてみて、**現役生のプレーの緩さ**を改めて感じました。要は、ポンコツの私でも現役生相手ならそこそこプレーできたということ。**もっとガッツリ体を入れ合わなければならないぞ！**

恒例の2年生対3年生は、PK合戦にて一人多い2年生が辛勝。一人多いんだから2

代よりも声が出ていて、正直感動した。」カンタの洞察は正しいと思います。

¹¹ 報道局長ではありません。

年は勝って当たり前、と言いたいところですが、内容的には3年生の圧勝でしたね。

プレーの後は、中庭移動。**各種ドリンクを左手に、箸を右手にもち（右利きの場合）、佐門のモツ煮に舌鼓を打つ。**プレーで汗をかいた後に、このしょっぱい味付けがまた効く。味を薄めたい場合は豆腐で調整すればよい。「**プレーの後にモツ煮**」というこの企画を考へて下さった**山東サッカー部後援会の武田元会長（故人）と奥山前副会長に改めて感謝。**

少し腹を満たした後は、3年生代表の受験に向けた決意の言葉と2年生代表の今後のプレー面での決意の言葉で締めて、終了。今年も、「**山東サッカー部はそこで育ち旅立つ場所であり、帰ってくる場所でもある**」という思いを深くいたしました。

後援会の皆さま、重ね重ねありがとうございました。

Y1で3連敗も夏場の成果見える

先日ありましたお盆明けの初戦羽黒高校戦（8月19日15:30キックオフ）ですが、顧問今野が所用のため16:00くらいにピッチを後にしなければなりませんでしたので、采配を高橋コーチに任せ、**報告をhappy lifeを送る副部長ミヤガワに任せました。**以下、副部長のマッチレポートです。

いつも山東サッカー部報をご愛読されている皆様、こんにちは。今回は監督、今野先生に代わりまして、**2年副キャプテン、ミヤガワことササキ**がお送りいたします。

8月19日（土）、山形市球技場でY1第10節が行われた。相手はこの時点でY1リーグ堂々の一位、羽黒高校である。大量失点での負けが続く山東だが、この試合は、少しでも粘り強く戦い、意地を見せたいところだ。そのために、**夏の間は徹底的に走り込み、フィジカル面の向上に努めてきた。また、隣県宮城で行われたIHを視察し、全国トップクラスのサッカーを目の当たりにしたので、イメージはバッチリである。**

試合開始のホイッスルが鳴る。試合前、最初の15分は無失点で抑えようと、**高橋コーチ(この日は監督)**と約束しており、入りは**中山のドン、2年キャプテンフトシ**と、**苗場に肉を持参してきた超意識の高い1年オサ**の両CBを中心として、中々安定した守備ができていた。特に、相手のCKの場面で、**No納豆No lifeの2年GKホタテことソウ**が、ナイスパンチングで危機を防ぐ。うん、この調子で粘り強くやってほしい。そして、無事無失点のまま15分を終えた。と思った矢先、前半17分、**1年左SB / 7**のファールからリスタートされ、左サイドを崩されクロスをニア側で簡単に合わせられ失点。**ゴール前での対人の弱さが目に見えるものとなった。**だか、この試合、**スコアの勝負というより、どれだけ自分達の練習の成果か出せるかが重要。**1失点でめげてはいられない。失点后、流れは完全に羽黒に移り、一方的に押される展開に。一応、**限定を守り相手を制限する**（例えば、相手SHがボールを持ったら縦を切ってボランチの所で取り切る）という決まりは守っているが、最後に**体を入れて奪いきれていない。**そして前半26分、相手が山東ゴール前に高く上げたボールが**2年よーていー**の頭を越して、背の高い選手に押し込まれ、2失点目。結局、その後（前半31分、36分）もサイドからのクロスに対応できず、2失点。合計4失点の0-4で前半を折り返す。ちなみに、**前半は1本も山東シュートがなく、正に防戦一**

方であった。

気を取り直して、後半戦へ。少しでも山東の見せ場を作りたい。入りは、両チーム共に決定的なチャンスがなく、羽黒のボールポゼッションに山東がくらくらしていた。そんな中、山東にチャンスが訪れたのは後半 12 分。GK ホタテからのパントキックを競り合う際、**目指せ Mr.山東3年 FW カンタ**が相手からファールを受け、センターライン手前から、フトシが相手の GK と DF の間にふわりとした絶妙なボールを入れる。それに反応したのが**山東祭でのスケジュールが過密過ぎてもはや芸人の 2年 FW タカヒラ**。ダイビングヘッドぎみに頭で合わせた。が、惜しくもキーパー正面で得点とならず。これがやっと**山東にとって初シュート**となったので、この調子で相手ゴールを脅かしていきたいところだ。後半に入って、**羽黒の球際の強さに慣れて来たのか、しっかりと体を当ててボールを奪い切ることができている選手が増え始めた。本当は、試合の中で慣れるのではなく、普段の練習から球際を厳しく行き、試合と練習とで変わらない環境を作っていくことが要求されるのだが・・・。**それはさておき、山東の初シュートから 7 分後、またもやチャンスが。相手のクリアをタカヒラが中盤でインターセプトし、その流れで FW カンタに落とし、落ちてきたカンタが左サイドを駆け上がる**2年 MF 菊ちゃん**にパス。そして菊ちゃんが中に切り返して早い段階でセンタリングを上げる。合わせたのは FW カンタ。頭で合わせたのだが、これも惜しくもキーパーに阻まれる。だが、奪ってからシュートまでの流れではうまく相手 DF を崩すことができおり、いい収穫となった。2本のヘディングシュートがあり、もっとゴールに迫りたい山東であったが、やはり羽黒の攻撃を凌ぐことで精一杯なまま時間だけが経過していく。**中々攻撃に移れない理由は、クリアがショートしてしまって再び相手ボールになってしまうという悪循環**があったためだろう。この試合も終わりを迎えようとしていた後半 39 分、ギリギリのところで失点を防いできた山東であったが、相手 CK から簡単に合わせられ、5 失点目。コーナーでのマークの指示が曖昧になっていたのが課題となった。それから 3 分後の後半 42 分、相手 DF から大きくあがったボールが、**1年 CB ダイキ**の裏を通り、そのまま相手 FW に突破され綺麗な形でシュートが決まってしまった。そして、試合終了のホイッスル。

結果、**0 対 6**でまたもや**大量失点での敗北**を喫した。だか、先ほど述べたように、**今回重要なのはスコアよりも内容だ（テストでも同じことが言えたらいいのに）**。この試合と後期初戦の対米沢中央戦を比べてみると、どちらも 0 対 6 で負けているが、**内容では明らかに今回の方が高いように思える。特に、球際の激しさ、そして、声については、大幅に向上している。**もちろん、それは山東の前と比べてのものであって、Y1 のチームとしては、まだまだ足りてないと言ってよい。また、今回の試合で交代したのは 1 年ダイキ一人だけであって、**スタメン以外の選手のレベルアップがより求められる。**人数が少ない山東だからこそ、スタメン組を脅かし全体を向上させる存在が必要なのだと実感した。

まず、**達成すべき我々山東の目標は、Y1 残留。**そういった意味では、**次節の山形商業戦は、本当に重要な一戦**となる。山東祭副実行委員長の 3 年カンタが山東祭で不在のため、1、2 年生のみでの試合となります。応援、よろしくお願いします！

8 月 26 日 (土) Y1 第 11 節 山形商業戦 10:30~ @山形市球技場